

会 議 録

会議の名称	第6回西東京市図書館計画策定懇談会
開催日時	平成30年9月11日（火） 午後3時から午後5時30分
開催場所	中央図書館会議室
出席者	<p>【委員】松尾委員、島委員、西村委員、山口委員、鈴木委員、藤澤委員、武田委員、上田委員、攝賀委員、松嶋委員、中川委員（館長）、司城委員（副館長）</p> <p>【事務局】奈良庶務係長、西村ひばりが丘図書館地域館長</p>
傍聴人	なし
議 題	<p>第1 図書館計画（案）について</p> <p>第2 その他</p>
会議資料の名称	<p>配布資料</p> <p>資料1 （仮）西東京市図書館計画(案)</p> <p>資料2 図書館計画（2019～2023年度）の体系(案)</p> <p>資料3 西東京市図書館計画策定懇談会スケジュール（更新）</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会 議 内 容

第1 図書館の計画（案）について

- 座長 今回の資料の説明を願いたい。
- 館長 資料1「西東京市図書館計画(案)」については、前回の基本方針と施策の方向性までの議論に基づき、各取組項目及び事業内容を示し、資料2「図書館計画の体系（案）」にまとめた。資料3「西東京市図書館計画策定懇談会スケジュール（更新）」は、11月7日の第8回会議後に最終原稿を作成し、11月27日にパブリックコメント、1月に意見をまとめ、1月末に懇談会の予定である。
- 座長 文章表現の訂正がかなりあったので事務局と調整する。
- 委員 「図書館基本計画・展望計画」での計画をふまえ、その成果を検証するとともに、問題点と課題は何かということを示し、「Ⅲ基本的な考え方」につながるような体系にしてほしい。市民意識調査と利用者アンケートは、資料を添付してほしい。アンケートには開館時間への要望も出ているのではないか。
- 館長 「Ⅱこれまでの取組みと課題」については、総括が必要だということでもいいか。
- 委員 その前の部分で何が課題か、市民の意向はどうかを踏まえなければ、「Ⅲ基本的な考え方」は出てこない。
- 館長 現在の文章の形式について、もっと文章化した方がいいか、今の箇条書きのままでもいいか。
- 座長 今のまま、箇条書きの方がわかりやすいのではないか。
- 委員 基本方針6の（3）に、事業目標および数値目標等の設定とあるが、計画の最後に単年度の計画を設定するというのには違和感がある。
- 座長 単年度の目標の前に、5年間の事業目標の設定が必要。
- 委員 事業目標および数値目標は、最後ではなく計画の中に反映させてほしい。5年間の大まかな計画を立て、進捗状況を図っていくべき。
- 館長 取組項目ごとに、事業目標や数値目標を書き込む形式にする。

- 座長 では、基本方針1 施策の方向性（1）から議論していきたい。
- 委員 保存について触れていない。「西東京市図書館資料収集基準」とあるが、収集とあわせて保存についても明記してあるのか。
- 館長 資料の保存の基準は別途作成している。
- 委員 保存の基準も添付資料として掲載してほしい。
- 委員 収集については基準に基づいているとあるが、保存機能も重要なので、除籍や保存についても基準があればそれも明記したらどうか。
- 委員 「保存の検討」となっているが、「保存のあり方の検討」ではないか。
- 座長 保存についての検討は、書庫スペースがないという背景の中から出てきたことだと思うが、検討ということでもいいのか。
- 委員 計画の中に「検討する」が多いが、どこまで進めるのかがわかりづらい。5年間で何をどこまでやるのかをはっきりさせた方がいい。
- 委員 今の基準のままでなく、基準を見直すということがあるから検討としているのだと思う。指定管理や委託にすると簡単に資料を除籍して見栄えは良くしてしまう。直営でやっている、なかなか捨てられないと思うが、基準を見直しながら、除籍を進めていくことはできるのではないかと。
- 事務局（補足） どこかの自治体で1冊は取っておくという、多摩地域内の図書館での構築はある。
- 委員 書庫を保存のために用意することも必要だが、開架書架を魅力的にするためには引き抜きも必要という考え方を基準の中に入れ、利用のために除籍が必要という内容にするべきだと思う。
- 事務局（補足） 今の基準は作成してから年数が経っているので、社会的な変化も加味して見直すことも必要と考える。
- 副座長 収容能力を高めたいとしたいが、具体的な施策が今はできないので、あり方を検討するとしか書けないのではないかと。
- 事務局（補足） 保存の基準もあるが、収集基準についても見直しが必要と思う。
- 座長 取組①では幅広い資料の収集、取組②では保存について検討するが、廃棄についての基準を作り明確にする、あるいは基準を検討することを盛り込んだらどうか。
- 座長 基本方針1 施策の方向性（2）についてはどうか。
- 委員 「様々な形態の資料」がわかりづらいので、別の言い方はないか。
- 委員 DVD が削除されているようだが。
- 事務局（補足） DVDについては、5年間の計画の中での事業化は難しいので削除した。
- 座長 具体的には、電子データの取扱いに対する取組みになっていると思うので、電子図書館に向けた資料の整備としたらどうか。
- 事務局（補足） 基本は紙資料中心であり、電子資料は、スペース等の問題もあるので、取り組んでいくべき課題として取り上げている。
- 委員 取組①オンラインデータベースの検討について、データベースを増やすのではなく再検討するとなっているが、消極的な取組みに聞こえる。
- 館長 予算が限られた中で、有料データベースを広げるのは難しい。
- 委員 表示が少なく、積極的にPRもしていないように感じたので、利用者ニーズを踏まえる以前の問題として、周知がされていないように思う。
- 館長 利用者の利用アクセス件数は把握しているが、ニーズについては捉えきれていない。
- 座長 再検討ではなく、環境整備を整えていくことを明記したらどうか。
- 委員 無料のインターネット情報やビッグデータなど、新たな可能性を考えていくことも積極的な取組みになり、そのための環境整備やルールをつくるなど可能性はあるのではないかと。
- 座長 取組②電子資料の検討について、図書館協議会の提言をふまえてとなっているが。
- 館長 図書館協議会では時期尚早という提言をもらっている。
- 座長 電子ブックなどのサービスについては、他の図書館でも取り組んでいると思うが。
- 委員 提言を踏まえると、消極的にならざるを得ないと思うが、中長期的には今後推進していく方向になるのか。調査・研究後、将来的には活用につながるよう積極的に捉えられるような内容にしたほうがいい。
- 館長 <9/6図書館協議会の意見>のデジタルアーカイブについては、先日の図書館協議会の中で、将来的に取組む内容としてでた意見。基本方針3の地域資料の取組に移す。
- 委員 取組②にある「図書館協議会からの提言を踏まえ」は入れる必要はないのではないかと。

- 座長 次に、基本方針2 施策の方向性（1）についてはどうか。
- 副座長 ユニバーサルデザインという意見があったので、どこかに入れた方がいいのではないか。
（高齢者、障害者、外国人困難を抱える人々）のカッコ書き部分は要らない。
- 委員 困難を抱える人々とあるが、困難が何を指しているのかわかりづらい。
- 委員 様々な環境や理由によってとしているのでカッコ書き部分は要らない。むしろ書くことの方が、差別を助長しているような感じを受けてしまう。
- 委員 障害者やハンディキャップサービスという言葉をあえていれずに、ピクトグラムなど具体的に提案していると思うので、ユニバーサルという言葉は入れなくていいと思った。
- 委員 ユニバーサルは障害者だけでなく、誰もが等しく受けられるという意味なので、図書館におけるユニバーサルサービスという捉え方は必要だと思う。文言にこだわらず言葉の意味そのもので捉えればいい。
- 事務局（補足） 懇談会の中でも様々な意見があったので、誤解を招かないようにした。
- 委員 あえて言葉を出さない判断をしたと思う。
- 委員 市の方針として定着させるために、ユニバーサルサービスという言葉を出した方がいい。
- 委員 ユニバーサルサービスという言葉を入れるとなると、どこに入れるか意見が分かれるし、含まれない内容もある。具体的に書くことでユニバーサルの精神を進めていることがわかって周知されればいいと思う。多文化という言葉が入っていないが、市民が様々な人たちとの共生のための働きかけという内容が抜けているので入れてほしい。この多文化共生の取組みは、ユニバーサルサービスの内容とは少し違うし、ユニバーサルサービスの受け止め方も各自違うので、具体的な内容で示したほうが積み重ねていきやすい。
- 座長 取組②多文化サービスの実施としたらどうか。
- 委員 そこに様々な文化の価値を認め合い共生するためのきっかけづくりをするという内容を付け加えてほしい。
- 委員 取組み②にある地域・生活情報は日本における情報なのか各母国の情報なのか曖昧な表現。また、様々な言語の資料とあるが、言語の資料とはどういうことかわかりにくい。また、「基本方針2 すべての市民に活用されるために」こそがユニバーサルサービスそのものだと思う。
- 委員 フレイル（未病・虚弱）のサポーターをしているが、啓発のためにあえてフレイルと言う言葉を使っているので、ユニバーサルサービスという言葉を入れることには意味がある。
- 委員 わかりやすさでいえば、「すべての市民に活用されるために」の方がわかりやすい。
- 副座長 取組②は多文化サービスとして、分けて多文化理解のための項目を作ったらどうか。ユニバーサルサービスという言葉を入れるかどうかと合わせて事務局で判断してもらおう。
- 委員 取組③利用しやすい環境づくりについて、利用からの要望もあると思うので開館時間や開館日についての検討があっていい。
- 委員 朝9時開館と思っていたら、10時だったことがあり、その時に違和感があったことも確かである。利用者にとっては大事な要素であると思う。
- 委員 将来的に開館時間をどうするか考える時、利用者層をどうとらえるか、滞在型サービスをどうするかなどを検討する中で、新たなターゲットがでてきた時に、柔軟に対応していくためのアイデアは出てくると思う。開館時間等の検討は項目としてあっていい。
- 副座長 この問題は避けて通れないものだと思うので、入れる方向で検討してほしい。
- 座長 では、次に基本方針2 施策の方向性（2）についてはどうか。
- 委員 青年期の対象がわからない。また、青年期より、青年期支援とした方がわかりやすい。
- 事務局（補足） 20代から30代を対象とし、興味あるテーマを集めたコーナーを中央図書館のみで実施している。
- 座長 「分類法によらず」の部分はいらないのではないか。
次に基本方針2 施策の方向性（3）についてはどうか。
- 座長 国立国会図書館のレファレンス協同データベースについては、説明をつけた方がいい。
- 委員 西東京市の図書館におけるレファレンスの事例はどのようなものがあるのか。
- 館長 図書館のホームページに掲載しているが、紙ベースでの事例は出していない。
- 委員 市民のニーズがどれだけあるのか、どのような質問があるのか、どれくらいの件数があるのかわからない。
- 委員 レファレンスという言葉自体がわかりづらいという意見があったと思う。資料によるサービスと別に情報によるサービスの中にレファレンスサービスがあるということを、市民にわかりやすく周知してほしい。オンラインデータベースも市民にわかりやすい環境をつくることが有効

利用につながる。

- 座長 基本方針2 施策の方向性(4)についてはどうか。
- 委員 取組②の「西東京市広報活動指針」がわからないので、添付資料として付けてほしい。
- 委員 取組①②③の区分けがよくわからない。②にある「活用可能な情報発信媒体」を具体的にSNSと入れたほうがいい。
- 事務局(補足) 活動指針は、発信の媒体の一覧があるので取り上げたが、活用可能な情報発信媒体も分かりづらいので、具体的にSNSなどにして活動指針は掲載しない。
- 委員 取組③の広報活動は、広報のみでなく、広聴も必要。
- 座長 取組③に「もっとわかりやすく」とあるが現状はどうか。
- 事務局(補足) 今は図書館ホームページからの市民メールやご意見箱の意見に対しては個人に返信するのみだが、スーパーなどのように、お客様のご意見に対して掲示を行うなど検討していく。
- 委員 広報として図書館のホームページはとても大事だと思うが、西東京市のホームページは使いにくい。
- 副座長 ホームページの使い勝手は、図書館によってかなり違う。
- 事務局(補足) システムの入れ替えの際に、見直しを行う。ホームページについては、取組①の中に盛り込んでいる。
- 座長 取組①の図書館のホームページについては、紙媒体と独立させて広報と分けて1つの項目として取り上げたらどうか。
- 委員 広報機能とシステム機能が一緒になってしまっているので、広報としてのホームページと別に、ポータルサイトとしてのホームページの機能を分けて示せないか。
- 座長 基本方針3についてはどうか。
- 事務局(補足) 基本方針1、施策の方向性(2)にあったデジタルアーカイブをここに入れる。
- 座長 基本方針4についてはどうか。
- 副座長 専門的知識を持つ職員の育成は、児童担当のみでなく全サービスの職員が対象ではないか。
- 事務局(補足) 基本方針6 施策の方向性(1) 職員の専門性の向上に向けた取組みにまとめる。
- 副座長 中高生・YA世代とあるが、文言を統一した方がいい。
- 事務局(補足) YA世代として、説明を入れる。
- 委員 前回、施策の方向性(1)「いつでもどこでも子どもがであえる場づくり」として「であえる」をひらがなに変更する意見が出ていたが。
- 事務局(補足) 変更してみたが、文章にひらがなが続くので、漢字に戻した。
- 委員 放課後子供教室とあるが、やる方向なのか。
- 事務局(補足) 教育計画に入っている。
- 委員 社会教育委員として、放課後子供教室への図書館支援は頼んだが、職員を派遣とはいっていなかったと思う。
- 館長 ボランティアの活用も今後検討していくと思うが、すぐできるのは職員の派遣による対応ということになった。
- 座長 基本方針5についてはどうか。
- 座長 武蔵野大学図書館の連携があるが、項目を分けて1項目立てたらどうか。
- 事務局(補足) 武蔵野大学図書館とは、相互利用の協定を結んでいる。また毎年、大学の授業に図書館職員が講義に行っている。
- 委員 定期的なイベントとあるが、どのようなものか。
- 館長 毎年横浜で開催される総合図書館展でやっている展示やセミナーのような形式で、1週間程度の期間で、一日を時間ごとに区切り、メニュー別に全館での参加型イベントを考えている。
- 委員 定期的な大規模イベントだけではイメージがわからない。大規模でなく小さい催しから始めてもいいので、イベントだけにしたらどうか。
- 委員 図書館友の会はどのくらいあるのか。
- 事務局(補足) 図書館友の会があるところはあまりない。
- 委員 施策の方向性(3) 取組①に、ハンディキャップサービスについてはとあるが、今まで使ったこなかったのに突然出てきて、違和感がある。
- 副座長 音訳事業については、といたらどうか。
- 座長 基本方針6 施策の方向性(1)についてはどうか。
- 委員 取組①に、高齢者との向き合い方とあるが、通常の接遇と違うのか。高齢者に限らず、全ての市民を対象にした方がいい。

- 委員 一般的な接遇研修だけより、時代を反映させた高齢者との向き合い方など具体的なほうが意思表示としてはいいのではないか。
- 委員 接遇研修として手話を行うところもあるが、手話のできる職員はいるのか。
- 事務局（補足） あいさつ程度はできるが、会話までできる職員はいない。
- 委員 高齢者に限らず、ちょっと難しい人でもこじれずに言いたいことが言え、職員も気持ちよく仕事ができればいいので、すべての市民が安心して利用してもらえる接遇としたらどうか。
- 委員 取組②で、司書職員とあるが、司書以外の職員もいるのではないか。また、直営方式とあるが、あえて問題定義しなくても、「職員と市民嘱託員による専門性の高い職員集団」でいいのではないか。
- 館長 図書館協議会からの意見では、直営方式でと言っているので載せた。
- 委員 あえて載せたのは、市民の中には直営方式にこだわってほしいという人がいるからではないかと思う。市民嘱託員について、職員と協調とあるが、あえて強調という言葉を使った意味を聞きたい。また、事業の企画や立案とあるが、企画・立案は職員がやり嘱託員は補助的な仕事をするとする。企画・立案をあえて入れた意味を聞きたい。今現在、嘱託員は企画・立案に携わっているのか。また、今後携わるようにしていくのか。
- 館長 現状では携わっていないが、平成32年度から嘱託員任用制度が、会計年度任用制度に変わる。
- 委員 専門性の高い職員集団に、市民嘱託員ははいるのか。
- 委員 市民嘱託員を直営の職員集団とみていかないと、司書としての専門の職員集団を維持していくのは難しいので、あえて嘱託員のことを入れたのだと思うが、図書館の意見を十分に聞いたうえで、懇談会として考えなくてはならない。嘱託員制度が変わることに伴い、正規職員と嘱託員による専門集団を作ること指定管理の方向にはいかないということになるが、その方向性をこの計画に反映させるかどうかは、直営方式とあわせて簡単には決められない。
- 座長 一通り議論したが、そのほか気づいた点はあるか。
- 委員 目次の基本の方針に入るところで、いきなり「図書館計画では」となっているが、これまでの取組を踏まえてなどの、前置きがないと、それまでの内容とのつながりがない。
- 事務局（補足） 文章について加筆する。
- 座長 危機管理についての項目がないが、盛り込まなくていいのか。
- 事務局（補足） 基本方針6に追加する。

第2 その他

特になし。

次回 10月17日(水) 10:00から 中央図書館会議室